Over the Rainbow

| レイチル通信 NewsLetter 版

2016 Autumn

教育は世界を変える！インド・チベットの若者から未来のリーダーを育てる奨学金を運営する NGO

虹のスタディツアー第１０回目報告

２０１６年9月２７日～１０月９日の１３日間

９月から１０月にかけて、１１名の参加メンバーでスタディツアーに行って参りました。２０１２年３月からスタートした「虹のスタディツアー」は今回で記念すべき１０回目を迎えました。

レインボーチルドレンの団体メンバーはボランティアで、それぞれが仕事をもつ社会人中心です。ですので、春と秋の年２回のスタディツアーは現地プロジェクトを進める貴重な活動の時間でもあります。一般参加のメンバーには、すべてのスケジュールに参加してもらう形式で、例えば今回はチベット亡命政府のロブサン・センゲ首相との面談にも同席してもらいました。

今回は、バラナシ３日間、デリー３日間、ダラムサラ５日間のスケジュールでしたが、その中でプロジェクト活動の部分のみ報告致します。

■今年度の奨学生について

第５期生３０名を迎え、総勢６６名がインドの大学・大学院で学ぶことになりました。そして皆さまのお蔭で、今年度分の奨学金４３０万円の送金を完了致しました。ありがとうございました。

■卒業生レポートについて

昨年１１名の卒業生が誕生しました（累計１３名）。次のステップに向かう若者たちの、現在、将来の夢、日本の支援者に向けたビデオメッセージを撮影してきました。後日公開予定です。

■スラム支援地決定と奨学生１号について

インドの首都デリーで最も歴史が古く最も大きなスラム、Baljeet Nagar を新たな支援地として決定しました。このスラムを本拠地として活動する NGO; Wahoe Commune と協働して、運営するスラムの小さな学校を応援していきます。
また、このスラム出身で現在はこの学校のリーダーとして活躍するサンタン君を奨学生として迎え、大学院進学の支援を決定しました。デリーのすべてのスラムに学校を建てるサンタンの夢を、若きリーダーである彼をサポートすることで実現を目指します。

■レインボーチルドレン奨学金へのプロジェクト統合について

今後団体が運営するレインボーチルドレン奨学金をメイン事業とすることで、活動と目指す方向の明確化を図ります。レインボーチルドレンは、インド・チベットの若者から未来のリーダーを育てる奨学金を運営するＮＧＯです。

■新メンバー紹介

奨学生の一人、ナムドルちゃんがメンバーへ参加してくれました。チベットプロジェクトの本拠地ダラムサラで活動してもらいます。（下記ブログにて紹介しています）

■ロブサン・センゲ首相、ノドゥプ教育大臣インタビューについて

４年ぶりにチベット亡命政府のロブサン・センゲ首相にご報告して参りました。ノドゥプ教育大臣と共に、日本の支援者に向けたメッセージも撮影してきました。こちらも後日公開予定です。

■キッズカメラＰＪ４・５校目決定！

スラムの Wahoe Commune School、ダラムサラにあるペトンスクール（初等部）が新たに運営校として決まりました。前者はすでに２５台のカメラを贈呈し、写真活動も始まっています。

この他も、デリー・ダラムサラで行った総勢６５名の奨学生ミーティングなど、非常に内容の濃い、そしてチベットプロジェクト・スラムプロジェクト共にたくさんの成果があったインド訪問となりました。

これらについては今後も進捗報告を継続していきます。今後もレインボーチルドレンの活動にご注目ください。

特集

12/4 大阪ナマステ X'mas 開催

虹のスタディツアー１０回目を記念して、２０１６年１２月４日（月）に大阪でナマステクリスマス NamasteX'mas を開催します。メルマガ版のレイチル通信を購読いただいている皆さまには、11/7 発信のレイチル通信特別号で招待状をお送りします。

２ページ

スラム奨学生第１号サンタン誕生

この秋、スラムプロジェクトから奨学生が誕生しました。スラム出身で、現在 NGO にてスラムの小さな学校の責任者を務めるサンタンです。スラム出身ながらも自力でデリー大学を卒業したサンタンが、大学院へ進学した後に叶えたい夢とは…

５ページ

ナマステ・クリスマス

Namaste X'mas on 4th Dec.2016

～ 72 人の人生観を変えたインド・チベットに出会う旅～

＜スタディツアー10 回記念イベント＞

一年に一度誰もがやさしくなれるクリスマス
インドの子どもたちへ、チベットの学生たちへ、
輝く未来への希望をプレゼントしませんか？
懐深いインドや神秘的なチベットの魅力が満載
あなたの知らない世界へご招待！

●開催：2016 年 12 月４日（日）
13:00 ～ 17:00
（事前申込み不要・途中参加途中退席 自由）

●会場：生活ヨガ研究所
大阪市中央区北浜東 1-29 北浜ビル 2 号館７F
（京阪・地下鉄 天満橋駅より徒歩 8 分）

●参加費：
500 円以上のドネーション（チャイ一杯つき）

●スケジュール：
13:00～ 開場
14:00～ 上映会
15:00～ トークショー
16:00～ 五体投地体験
17:00 閉会

●プログラム：
・上映会「あなたの知らないインド」(14:00)
・トークショー「教育は世界を変える」(15:00)
・五体投地体験(16:00)
・インド・チベット雑貨チャリティマーケット
・インド人になろう！仮装写真体験
・曼荼羅塗り絵体験
・展示 チベットを知ろう！
・キッズカメラ作品写真展示
・プレゼントが当たるお楽しみ抽選会（１４：４５/１６：００）

ナマステ・クリスマス NAMASTE X'MAS

２０１６年１２月４日（日）
大阪市北浜（天満橋駅）生活ヨガ研究所、午後１３時開場～17 時終了

詳しくはホームページで
http://rainbowchildren.holy.jp/archives/12175

廃止対象の２紙幣以外の小額紙幣も受け付けています。

緊急募集ルピー募金！

＜１２月４日まで受け付けています＞

インドのモディ首相は１１月８日、現在流通している紙幣のうち１０００ルピー札と５００ルピー札の２種類を、現地時間の９日午前０時で廃止すると発表しました。新紙幣との交換期間は１２月３０日までとされています。

これを受けてレインボーチルドレンでは、**日本国内にある旧高額紙幣を緊急募集**することを決定しました。
皆様から集まったお金は、寄附金としてレインボーチルドレンが取り組む インド国内での教育支援に充てさせていただきます。

■募集期間：
2016 年 12 月４日（必着）

■レインボーチルドレンへの送金方法：
（１）郵送での方法
普通郵便（補償なし）で送れます。
〒630-0226 奈良県生駒市小平尾町
107-24 特定非営利活動法人レインボーチルドレンジャパン

２）直接持ち込む方法
12/4 開催のイベント「Namaste X'mas」会場に直接お持ちください。

チベットプロジェクト

ノドゥプ教育大臣（CTA）

チベットプロジェクトの奨学金は中央チベット政権（CTA）の教育省との協働です。奨学生の選考や各大学への支払いは、すべて教育大臣や奨学金担当を通して運営しています。

ダラムサラにいる奨学生４７名

今期は新入生３０名全員がダラムサラのサラ大学、もしくはノルブリンカに通う学生でした。ダラムサラで行った奨学生ミーティングは、日本チームを加えると５０名を超える大きなイベントとなりました。

レインボーチルドレン奨学金データ

６６名

現在在学中の奨学生（大学･大学院）の数。

目標は在学１００名。

１３名

これまでに卒業した奨学生の数。

さらに詳しくは

奨学金誕生のストーリーや今年度新入生３０名の名簿も紹介しています。

公式 HP
レインボーチルドレン奨学金をチェック

ノルブリンカ・インスティチュートの新入学生たち１３名。ノルブリンカはチベットの伝統工芸・美術を継承するために設立された機関です。

レインボーチルドレン奨学生２０１６

１１名が卒業し、３０名が新入学、合計６６名になりました。

レインボーチルドレン奨学金２０１６（チベットプロジェクト）

奨学生の内訳は以下の合計６５名です。

・２期生１名（２０１３年～）、３期生６名（２０１４年～）、４期生２８名（２０１５年～）、５期生３０名（２０１６年～）

新入生の５期生３０名の内訳は以下となります。

・サラ大学１７名、ノルブリンカ大学１３名

昨年度は１１名が卒業し、残念ながら４名が継続できませんでした。卒業生の中４名はインタビュー動画を撮影しています。後日公開予定です。

・【卒業生１１名】１期生１名、２期生３名、３期生７名

・【非継続４名】留年２名、本土帰還２名

奨学金送金学は以下となります（Ｒｓ＝インドルピー）。

２７,５０,７６２Ｒｓ

10/12 円換算金額　４,２６６,３８６円

今年度の奨学生選考について

５年目となる奨学金運営、そして新入奨学生の選考時期を前にして、選考基準の見直しに着手しました。７月にはインターン２名がダラムサラへ赴き、教育省の奨学金セクションとの打ち合わせを行いました。そして、団体で協議した上で定めたのが以下の選考基準です。

・大学１年からの支援とする

・デリーもしくはダラムサラの大学へ通う学生とする

・リーダーシップワークショップ経験者を優先

・兄弟が４人以上いて、かつ両親以外に経済的支援者がいない者を優先する

・自分で越境亡命してきた者を優先する

来年度の奨学生選考について

また、１０月の教育省訪問時にノドゥプ教育大臣との会議で話し合った、来年度(2017 年)での取り組みは以下となります。

・一部自主選考枠を取り入れる(書類選考に基づきレインボーチルドレンで面接を行い奨学生を決定する)

・来年度は主にデリーの大学で学ぶ学生から選考する(多様な大学･学部で学ぶ奨学生の全体割合のバランスを考慮する)

・四年間支援した学生が大学院へ進学する場合は、継続支援を行う

奨学生ミーティング２０１６@デリー、ダラムサラ

ミーティング@デリー１０月２日

インド滞在中、最初はデリーの MT（マジュヌカティラ：チベット人居住区）のレストランで奨学生ミーティングを開催しました。対象はデリーの大学に通う在学生１１名と、卒業生の内３名。年に２回毎回会っているメンバーばかりなのでとても楽しみにしていました。

今回の奨学生ミーティングのテーマは「文化交流」。日本から竹細工職人の五月女大介さんがツアーに参加してくれたことで、日本の伝統的な職人技術をチベット学生にも触れてもらおうと、竹細工のワークショップを企画しました。もう一つは、卒業生に全体スピーチをしてもらい、別で個別にインタビュー動画を撮影することでした。

３時間のミーティング時間の内、竹細工ワークショップは約１時間強。チベット学生と日本チーム混成のグループ４つに分かれ、花籠を作りました。講師の五月女大介さんに手伝ってもらいながらですが、完成した竹の花籠にはどのグループも歓声が上がりました。

卒業生のスピーチ動画は近日公開の予定です。

ミーティング@ダラムサラ１０月５日

ダラムサラの奨学生は２つの大学に分かれているので、全員をサラ大学に集めて開催しました。新入生３０名がすべてダラムサラの大学で学ぶ学生でしたので、在校生と合わせてサラ大学３４名、ノルブリンカ１３名、合計４７名の大ミーティングとなりました。

サラ大学では宿泊でしたので、夕方から第一部でワークショップを、夕食後の夜に第二部でチベット学生側から文化交流の演目を準備してくれました。

ワークショップは日本チームを合わせると５０名となるため７チームに分かれて行いました。デリーと同じく竹細工つくりは体験型で文化に触れることで、日本への興味を持ってくれた学生が多かったようです。竹はアジアに多く生息する植物で、チベット本土の竹細工を思い出したと感想を述べてくれた学生もいて、竹を通じた文化交流は成功だと感じました。

第二部は学生チームは衣装に着替えてチベットの伝統的な歌や踊りを披露してくれました。最後に全員で大きな輪になって踊ったチベットダンスは忘れることのできない思い出となりました。

お互いの文化を知る機会をもてたことで、チベット奨学生との関係がより深くなったことが感じられ、今回の大きな収穫の一つとなりました。

今期卒業生が１１名誕生

[昨年の２名に続き多くの卒業生が先の未来へ羽ばたきました]

今回卒業インタビュー動画を撮影した数名の中から、ダイジェストでお伝えします。（翻訳入り動画は後日公開予定です）

Jigme Choedon（右写真の左上）

私の名前はジグメ・チョデンです。看護学博士課程を卒業したところです。現在は、証明書のために 一時的に働いています。ロンドンで看護師として働く機会をいただきました。IELTS の準備もしています。１０月には採用面接もあります。うまくいけば、ロンドンで看護師として働きます。私の将来の目標は、リーダーとして Hospital Administration を発展させていきたいです。ロンドンで働けるようになれば、並行してオンラインや通信で MHA（Master of Hospital administration）を取得したいと思っています。

Tenzin Zomkey（右写真の左下）

私の名前はテンジン・ゾムキーです。大学院を卒表しました。１年間、スペイン語コースを受講します。その後博士課程に進み、卒業後は研究職に就きたいと思っています。

日本の皆さまへ

私は、テンジン・ゾムキーです。チベット人です。インドに住んでいます。レインボーチルドレン、そして代表が、私たちをサポートしてくださり、世界の誰かの人生に変化を与えてくださったことに感謝したいです。特に教育の分野においてです。２年間支援してくださった人に出会えたことを幸せに思います。

皆様の素晴らしい人生をお祈りします。ありがとうございます。

さらに詳しくは

公式ホームページでは、インターン学生が奨学生一人一人の大学や寮を訪問してインタビューしたレポートをご覧いただけます。

奨学生名簿ページ
http://rainbowchildren.holy.jp/tibet/student/list

スラム奨学生第１号誕生

スラムの真のリーダー目指してサンタンが大学院へ入学

この秋は２回に分けてインドを訪問しました。１回目（8/31-9/12）はスラムプロジェクトのみの活動、２回目（9/24-10/9）はスタディツアーを含めた全体プロジェクトの活動でした。

前半はスラムプロジェクトにおいて、今後の協働先を決めるためにあらゆる選択肢を探りました。事前にインド中央政府・デリー州政府それぞれの教育セクションや最大規模のＮＧＯとアポイントを入れ、現地ではスラムから生徒を集めた高校を運営する大規模な教育機関、小規模ＮＧＯも加えて訪問し、レインボーチルドレンのビジョンと方向性が重なり、かつ、お互い信頼してスラムへの長期的支援活動ができる協働先を絞り込んでいきました。

その中で浮上したのが、現地ＮＧＯ：Wahoe Commune でした。

現地ＮＧＯ：Wahoe Commune（ワフーコミューン）

Wahoe Commune はインド・デリーに本拠地を置く２００３年にスタートしたＮＧＯです。さきほどの映像に写る巨大なスラムから活動が始まり、現在は北インドを中心に１４のプロジェクトを手掛ける若い集団です。

メインはスラムへの教育支援で現在５つの学校を運営しています。女性支援に力を入れているのも特徴です。

前半活動では、デリーのスラムの学校を３回訪問し、創設者との面談、デリー責任者との数回の食事を経て、協働先としての考えを固めていきました。

Wahoe Commune School（ワフーコミューンスクール）

本部事務所があるニューデリーの Baljeet Nagar は、１９４６年から形成されていった首都デリーで最も歴史が古く、最大のスラムです。現在およそ 35,000 人～37,000 人が居住する巨大なスラムにはいくつかの学校が存在しますが、その中のひとつが Wahoe Commune が運営するワフーコミューンスクールです。

現在４５人が通うこのスクールには２つの教室がありますが、ご覧の通りぎゅうぎゅう詰めの状態です。経費の問題からボランティア教師を中心に運営し、子どもたちの教材や筆記具も足りない状態の学校です。それでも子どもたちはここへ来るのが大好きで、授業開始前から集まってきて、教室の掃除を始めます。

前半訪問では日本人ボランティア学生による授業を行ったり、後半スタディツアーで訪れた時は、バルーンアートや塗り絵、ゲームをしてみんなで遊びました。

スラム出身の若きリーダー、サンタン

学校の運営とデリーでの事業をすべて任されているのは、このスラム出身のサンタン（２３歳）です。自力でデリー大学を卒業し、現在は NGO Wahoe Commune のデリー責任者として働いています。

普段は NGO の収益源となる旅行代理店部門の仕事をしていますが、先生の手が足りないため週３回ほど教師の代わりを務めることもあります。子どもたちのお兄ちゃん役のような存在です。

そんなサンタンの夢は、大学院で経営を学び NGO の収益力を向上させること、ワフーコミューンスクールを４５名→２００名にすること、デリー中のスラムに学校をつくることです。彼と何度も会いその夢を聞く中で、レインボーチルドレンがスラムプロジェクトで実現したい方向性と、彼の夢が重なっていることに気が付いたのです。

スラム奨学生第１号サンタンの誕生！

レインボーチルドレンは高等教育の奨学金を運営し、未来のリーダーを育てていく団体です。一方で、スラムにおいては学校に通えない子どもたちの初等教育の裾野を広げたい気持ちが強くありました。３度にわたるレインボースクール（スラムの学校）計画も、初等教育に関わるものでした。

しかし、サンタンの大学院進学をサポートすることで彼がリーダーとして持てる力をさらに引き上げ、ワフーコミューンスクールの充実によって子どもたちが学ぶ機会を広げることは、レインボーチルドレンが初等教育に直接関わることと同じインパクトとなります。いいえ、より望ましいスキームなります。スラム出身のサンタンがリーダーシップを発揮することで、その効果が最大化されるのです。

そして、驚いたのですが、このスラムには大学や大学院で学びたい若者がたくさんいました。将来サンタンに続く奨学生が誕生し、スクールの子どもたちもサンタンのようになりたいと勉強を頑張ることで、リーダーがたくさん生まれ、デリー中のスラムに学校をつくることも夢ではないかも知れません。

奨学生サンタンの大学院への入学は間もなくです。応援をよろしくお願いします！

今年度、チベット難民３０名とスラムからサンタンを迎えて、レインボーチルドレン奨学生は６６名となりました。全員がインドの大学や大学院で学んでいます。

レインボーチルドレンは、インド・チベットの若者から未来のリーダーを育てる「レインボーチルドレン奨学金」を運営するＮＧＯとして、リーダーたちが変えていく未来を応援します。

SANATAN JHA

サンタン２３歳

スラムのある Baljeet Nagar で育ち、デリー大学を自力で卒業しました。今も両親と共に Baljeet Nagar に暮らす独身。昼から深夜までホテル駐在で観光業務を務めながら、NGO の学校の業務も行う多忙な青年です。

Wahoe Commune School

サンタンはスラムにある４５名の学校、ワフーコミューンスクールの責任者です。子どもたちの兄貴分として、先生として、リーダーとして活躍しています。教師は２名そして各国から訪れるボランティアたちが臨時教師として子どもたちに授業を行います。子どもたちは学校が大好きで、いつも小さな教室はあふれかえっています。

NGO Wahoe Commune

ワフーコミューンでは外国人観光客向けにスラムツアーも行っています。スタディツアーでも全員で参加しました。スラムの近くにあるオフィスで説明を受け、その後約１時間かけて巨大なスラムを巡ります。デリーのナイトツアーなど観光業を収益の柱としています。

Be the change project

次の春の奨学生ミーティングに向けて、「Edu×らぼ」の協力を受けて「変える力を育てる～Be the change project」がスタートしました。

奨学生６５名（大学生）に行ってもらうフューチャーセッションの内容をこれから半年間で作り上げていきます。

プロジェクトメンバーは、現役高校教師２名、社会人１名、現役大学生２名（１名はインドよりの留学生）、レイチルメンバーです。

レインボーチルドレンがインドで行っている活動や、支援する奨学生（大学生）たちのバックボーンや大学による違いなどを確認し、ゴールを設定しました。

その過程で、リーダーシップ育成支援プロジェクトと題していたプロジェクト名も、「**変える力を育てるプロジェクト**」に変更し、目指すところをより明確に定めました。

利他の精神をもつ若者たちに、「**対話による問題解決手法（フューチャーセッション）**」を伝えること。

フューチャーセッションそのものは欧州発ですが、対話による問題解決という手法は、彼らのリーダー（ダライ・ラマ１４世）がチベット問題解決のための平和的手法として実践をつづけ、世界へ説いている平和実現への処方箋に近いものかも知れません。

力での解決はなく、他者と認め合い・分かち合うことができれば、対話によって問題解決の糸口を見つけることができるはずです。その先には心の平和という新しい世界が拡がります。

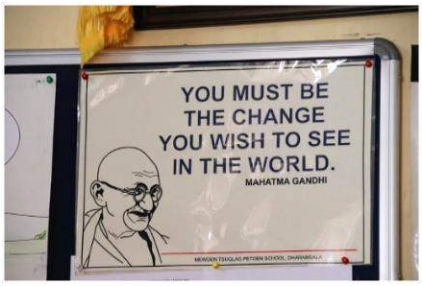
そこには、認め合い、分かち合える、平和な世界が訪れると信じます。

「奨学金支援（高等教育）から未来のリーダーを育成する」レインボーチルドレンが目指す方向もはっきりしてきました。

政治家、チェンジメーカー、ソーシャルワーカーだけでなく、

次世代のリーダーである教師、
次世代へなにかをつなぐ人、
そして作家や翻訳家や写真家など表現していくクリエイター、
そして企業に勤め社会の問題解決に挑む人、
地域社会のために働く人、
世界平和のために活動する人・祈る人、、

レインボーチルドレン奨学生すべてが、世の中を変えていく当事者＝Innovator：イノベーターとして活躍する未来を創造します。



You must be the change you want to see in the world.

あなた自身が、この世で見たいと思う変化とならなければならない。～マハトマ・ガンジー～

Over the Rainbow
| レイチル通信
NewsLetter 版

636-0226 奈良県生駒市
小平尾町１０７－２４

特定非営利活動法人
レインボーチルドレン ジャパン

「教育は世界を変える」

Rainbow Children

インドやチベットの若者から
未来のリーダーを育成する
奨学金を運営する団体です。